

名 称	高島市体験活動支援センター
所 在 地	〒520-1292 滋賀県高島市安曇川町田中455 滋賀県高島市教育委員会事務局 青少年課内
連 絡 先	TEL : 0740-32-4458 FAX : 0740-32-0990

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 高島市 55,451人

滋賀県高島市は、琵琶湖の西部に位置し、平成17年1月1日、マキノ町、今津町、朽木村、安曇川町、高島町、新旭町の5町1村が合併し、新市高島市としてスタートした。

古来より当地域は京都・奈良の都と北陸を結ぶ交通の要衝として栄え、中でも陸上交通は比叡・比良山麓を湖畔に沿って走る西近江路や、塩漬けされた鯖を運搬する街道であったことから鯖街道と呼ばれる若狭街道が主となり、これらの街道と大津方面への湖上交通の拠点である港町や宿場町として栄えてきた。

また、近江聖人と称えられた日本陽明学の始祖、中江藤樹先生生誕の地として知られているとともに、数多くの高島商人（近江商人）を送り出した土地柄でもある。

高島市内には、小学校16校、中学校6校、県立高等学校2校、県立養護学校1校がある。

コーディネートした事例の名称、概要、特色

名称 「高校生のつどい ☆未来へのステップ☆」

高校生の社会性および自立性を培うため、多様な大人たちと共に語り合う場を設定し、高校生の悩みやこれからの希望を話し合い、自己の価値観や社会とのつながりを見つめ、考える機会を提供した。

また、このつどいに参加した高校生が今後地域でいろいろな活動に参加しようとする能動性を培うことができるようにコーディネートを行った。

☆ 第1ステージ：全員集合!!

日 時：6月4日（日） 13時45分～16時45分

会 場：安曇川公民館

内 容：「自分探しの旅の時代へ」（講師：興梠寛先生）

ボランティア活動についての研修。今後の活動について説明。

☆ 第2ステージ：1泊2日“何かをつかみとれ!!”

日 時：6月17日（土）～18日（日）

会 場：びわ湖こどもの国

参加者：10人（男子8人、女子2人）、スタッフ5人

内 容：①オリエンテーション（説明&自己紹介） ※参加費 1,500 円

②夕食づくり“味噌煮込みうどん”

“飯ごうで炊いたおにぎり”

材料だけを提供し、あとは自分たちで考えて調理をする。

火を起こし、飯ごうでご飯を炊く。

③友だちについて話そう

（ゲストティーチャー：安曇川高校教諭）

④何かをつかみとれ！

講師：高島市青年協議会会長

NPO法人元気な仲間代表）

⑤これからの活動計画（アドバイザー：今津東小学校教諭）

⑥ふりかえりシート記入



【事業の特色とポイント】

1泊2日で高校生のつどいを開催した。高校の先生、青年団やNPO法人で活動されている方をゲストティーチャーとして招き、語り合いのコーディネートと活動報告をしていただいた。

- 1泊2日の活動を通して、積極性、協力性を培う。（野外炊飯）
- 相手の気持ちもくみ取りながら、自分を表現する。（語り合い）
- 自己や社会との関わりを見つめる。（高校生と大人が共に語り合う）
- 未来への活力を得る。（活動や話し合いを通じて得たもの）

コーディネートの実際

体験活動支援センターとして、全体プログラムのコーディネートをを行った。

市内にある県立高等学校2校で参加者募集チラシを全生徒配布したが、チラシだけでは参加者が集まらなかった。そのため顔見知りの高校生に声をかけてロコミで参加者を集めた。

開催日を設定するにあたっては、各高校から年間行事予定をもらい調整を図った。

高校生のつどいの中で何かを感じ、行動に移せるきっかけとなるようなプログラム設定を行い、事後に活動の場のコーディネートや相談業務を行った。

【活動】

☆たかしまこどもまつりで模擬店を出店。（かき氷、焼きそば）

値段設定、材料の買出し、備品の準備、看板作成等、グループで担当を決め準備を行う。困ったときの相談役としてサポートする。



☆しんあさひ健康福祉まつりでフリーマーケット出店。

NPO法人元気な仲間の方から出店依頼があり、活動の場をコーディネートする。

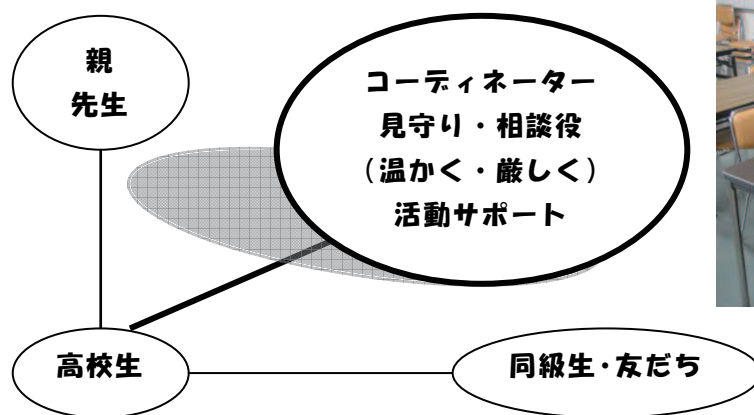
☆個々の活動

- 全国ユースフォーラム参加（3人）
- 子どもの体験活動をサポート
- たかしま未来っ子発見市～高島のまち探検～ 活動サポート
- バンドを結成
- 高島子どもゆめ会議参加

【成果と課題】

- ・ 顔見知りの高校生に声をかけて参加者が集まったので、仲間意識は高いが、他の高校生を受け入れにくい傾向がある。
- ・ 高校生のつどいが終わってから、自分たちで集まりを持ちグループを結成した。

- ・ 今後の活動でいろいろな事業を説明したが、「ぱしり」（使い走り：人のいいなりになる）は、イヤだと言われた。高校生の自主性を大切にするために、自ら企画を考え行動に移せるように時間はかかるが見守ることが必要である。
- ・ 参加者のほとんどが高校2年生なので、3年生になった時に進路等で活動ができなくなる可能性がある。
- ・ 高校生との連絡は、携帯メールを利用することにより、一人一人と繋がりができた。
- ・ 高校生と関わって、斜め（／）の関係を築くことができた。親でもない、学校の先生でもない、友だちでもない、第三者の関係。友だち関係や進路等についての相談を受けるようになった。



【次回の取組への改善点・留意点】

- ・ 高校との連携を強める。（高校生の体験活動やボランティア活動の場の開拓）
- ・ 一人では、なかなか参加できない高校生は友達を誘っての参加になる。グループ意識が強く、他の高校生を受け入れにくい。だが、そういうグループを幾つも育成し、一つ一つのグループや個人を大切に、活動につながるように支援する必要がある。
- ・ 高校生が自由に集える場所（フリースペース）が必要である。
- ・ 高校生は部活や塾、アルバイト等で忙しいため集めることが大変だが、一人の高校生との繋がりから、輪が広がる。顔見知りの高校生を増やす。
- ・ グループ内での人間関係にとっても気を使った。グループも大切に、一人一人の高校生も大切に関わっていくことが必要である。

執筆者職・氏名：滋賀県高島市教育委員会事務局 青少年課

体験活動コーディネーター 川島 育子